〔第三種郵便物認可〕　昭和九年二月八日　磐城新聞　〔木曜日〕　第三千九百四十四號　〔一〕

夕刊
磐城新聞
二月七日發行

定價　一部金五錢　一ヶ月金六拾五錢（郵稅拾五錢）
廣告料金　普通欄一行金六拾錢　雜報欄一行金九拾錢（五號十二字詰一行　指定所一行金一圓增）
發行所　磐城新聞合名會社
電話三六〇番

月曜祭日翌日休刊

九々いらず珠算に就て

吉田松雄

七
練習問題
左の數より毎回九を十回引け
118 130 150
左の數より毎回九十九を九回引け
1,099 1,200 1,600

逆減法

逆減法とは或る計算をして出來た數を他の數から引くのを逆に其の引かうとする數より上の桁に珠に一つあるものと假定して普通の引算を行ひ、其の假定した一に對する結果の補數が即ち答となるのである

例へば

一圓三十錢、二圓五十錢四十八錢、九十七錢を加へて八圓五十錢より引きたる結果を求めよと云ふ場合

一圓三十錢、二圓五十錢四十八錢、九十七錢の合計五圓二十五錢を盤面に置き、逆に八圓五十錢を引くのであるが首位に一あるものと假定し、即ち十五圓二十五錢と假定して引く時は盤面の殘金六圓七十五錢となる

即ち十圓に對する六圓七十五錢の補數は三圓二十五錢にして八圓五十錢より五圓二十五錢を引きたる求め得べき殘金は三圓二十五錢である

是れを算盤にてやる時頗る簡單であるから十分練習下さい

例二

一圓二十五錢、八十四錢一圓三十八錢、二圓二十錢を加へて九圓六十錢より引きだる結果を求めよと云ふ場合

一圓二十五錢、八十四錢一圓三十八錢、二圓二十錢の合計五圓六十七錢に一（首位に）を加へ、十五圓六十七錢と盤面に置き九圓六十錢を引き六圓七錢となる

此の補數三圓九十三錢が求め得べき答である

乘法及除法

世の中の人が、掛け算は易しいけれども割算は六づかしいと云ふのは敎へる者も習ふ者も同一に唱へて居る所であり又事實さうであります

其れを探究して見ると小學校にては掛算九々は十分にやり、卒業時に成ると掛算九々を覺へずに殘つた者は開いた事のない位無數あります、其れに反して割算九々の知つて居る者の少いのも、又あまりにも少なく卒業生の一割に逆する學校にては非常な成績のよい學校であり、其れより見ても社會に出て活動力に影響する事甚大な事此の一見にて證明されます

此の原因は割算九々と全然反對にして想像も及ばざる數でありまして、掛算九々を深く頭に入り割算九々に到つても掛算九々の口外する事により覺へにくいと云ふ事が證明されます

從來の割九々は二一天作の五、二進の一十など〻全く耳新しい九々をやらねばならぬ、更に二桁以上に成ると掛算の九々も、割算九々をやらねばならぬ、其の上に二一無頭作九の一（又は作九の一）歸一倍の一（又は億の一戻す）と云ふ樣な九々もいる

割算を覺へるには新らしく七十七伯の九々を十分に記憶せねばならぬ、此れが爲めに割算は六つヶ敷いと云ふ原因となるのでしよう

九々いらず算法は割算九々を全然使用せず割算は掛算の逆であるの理論の下に掛算の九々を使ひ小學校に於て十分に習つた筆算の方法で正確に簡單に迅速に最も覺へ易いのであります

掛算には方法が色々あります

尾乘法、頭乘法、補數乘法、剩數乘法、逆乘法、其の他種々乘數の數字に依つての簡便法がたくさんあります

割算方法に到つてもたくさんありますが順次覺え易い方より列記して見度いと思ふ

潮聲　第六十四集　甲戌一月號

甲戌新唱

ゆるぎなき國のひかりや初日の出　佐藤素秋（東京）

皇子生れしけさの夜あけや霜の花
かぎりなき御代めでたけれ霜の花　天野雨山（東京）

無事の身をかたるばかりを笑初め　岩井藍水（京都）

病中越筆
己が咳去年と今年につゞきけり　岡本機柳（東京）

みはるかす雪の天城や初御空
足もとにきらめく潮や初日影
初凪や磯畑はみな花豌豆　丹野翠雨（伊豆）

春先の吹出物

その豫防と手當法

醫學士　R　I　生

春は自然の生理作用から一般に年若い人達には顏面其他に色々な吹出物が出來て本人に勿論、他人目にも餘り見よいものではありません。ことにニキビは殆ど萬人共通に出て來ますからそれの豫防と手當を是非やつて欲しいものです

それには先づ何よりも皮膚を淸潔に保つこと、つまり洗顏を叮嚀に度々することです、そして中から出て來る脂肪を皮膚面にかたまらせないやうにし、穴をふさがないやうにして欲しいこと、もう一つは体內に老廢物をためて置かないことで決して便秘をさせてはなりません

しかしどんなに以上のやうな注意しても、生理作用である以上誰もが絶對にそれで防げるものではないから、若し出來た際にはやはり壓して取去るのですが其の際誰しも爪でやり勝のものですがあれは禁物ですその場合には中に穴のあいてゐる細い管のやうなもので周圍から壓して出すやうにするのが安全です

藥としては色々なものがありますが、次の處方の藥液を朝晩二回位つければ大低は綺麗にとれて行きます

精製カムフル　一・〇
アラビアゴム末　三・〇
沈降硫黄　三・〇
アルコホール　三〇・〇
薔薇水　一〇〇・〇

寄贈書目

△ローマ字二月號（一部二十錢、東京市麴町區丸の內三ノ一二ローマ字ひろめ會）

社會の今日

2月8日

△始めて新聞紙の發行を許す（明治二）△日露開戰（同三七）△大正天皇の御陵名を多摩陵と定む（昭和二）△上海共同租界周圍に非武裝品域設定案をわが國から關係列國に交涉△陸海軍聯合で呉淞總攻擊戰始まる（同七）△第十七回國際勞働會議の我國勞働代表隨員は高山藏氏に決定（同八）

○
古障子供養にもれし忘れ針

蝶
ふきのたう日向にむけてぬくぬくし、たま〳〵動く蠅一つ居り　平福百穗

講談　浪人長屋

日岐武志作　月草道子畫

（7）人買ひ船

どさッと、倒れるやうにそこへ坐ると玄內は熟柿臭い息をぷッと吐いて

『婆あさん、酒だッ』

と、どなつた

『ハイ、只今』

と下から老婆の聲

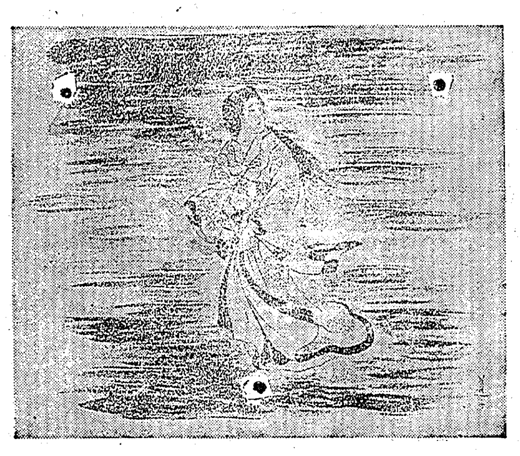
『小花ッ』

と、玄內は、またいやしい眼を小花の方に向けた

小花はつんとして見返した、その眼は冷やかに澄んでゐた

照れたやうな、うつろな笑ひが玄內の口から起つた

『あゝ、、、…。醉つたぞ



醉つたぞ』

――とんでもない、やくざ浪人にひつかかつてしまつた

と、小花は思つた

どうせ一旦死を覺悟したからだとはいへ、こんな男に……

『ハイ〳〵お待ち遠さま、栗澤の旦那は醉ふとほんとにこれだから困るんですよ！あなた氣にかけないで下さいましよ』

老婆は膳部を運んで來て小花の方へわらひながらいつて直ぐ立ち去つた

玄內は直ぐと猪口を取りあげ小花の方へ酌をしろと眼でいつた

小花は默つて素直に銚子を執つた

玄內は立ち續けに四五杯あふつた

出し拔けに、玄內は小花の腕をつかんで、ぐいと引き寄せた

その眼はいやしく燃えてゐた

『あ、ちよいと待つて〻下さいなすぐ來ますから』

小花はわざと媚を含んでしづかに男の手を解き立上つた

『直ぐだぞ』

と、玄內

『まあ、そんなこはい顏をなさらなくつとも、ようござんせう。ホホ……』

小花は思ひ切つてあだッぽく笑つて見せ、部屋を出ると、しづかに階段を下りて行つた

――逃げよう

と、思つた

ふと、帳場の障子の外に洩れる聲

『あゝして、今夜一晩中おもちやにしてさ、明日は大磯か、品川沖の人買船にでも賣り飛ばすんさね』

といふのは、たしか老婆の聲

『玉は上玉、吉原全盛の小花太夫ときて居る、いゝ鴨がひつかゝつたものさ、玄內の奴ぼろい儲けをして癪にさはるよ、ほんとに…』

小花は、はッと、打驚きふるへる足元をおさへつゝ裏口の方へ忍んで出た

以外な言葉、今まで豫期してゐなかつた、言葉

『小花ッ』

と、二階でどなる玄內の聲

降るばかりの星空だつた

裏口から、路路を忍んで表通りへ出ると小花は一散に驅けだした。右も左も分らぬ宿場、どこぞと當はなかつた

淚が、ぽろぽろと無性に走りながらこぼれた

――あゝ、どうしよう、どうしよう

『待てッ』

と後から玄內の聲。振り返つてみると、黑い人影が追ひかけて來る

そこはもう宿外れの、暗い並木道だつた

川があつたら飛びこんでしまはう……

さう思ひながら走りつゞけた。息が迫り、胸がはりさけるばかり、小花はぐら〳〵と、めまひを感じた

廣告

破魔弓と羽子板を陳列致しました。
奉祝　皇太子殿下御誕生用提灯各種
スガノヤ提灯店
平町四丁目・電話九五番

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前

『入院のお需めに應ず』
齒科口腔外科
日本齒科醫學士　鈴木喜政
鈴木醫院
內郷村高坂磐炭病院前

謹啓　私儀今回共保生命保險株式會社磐城監督所主任として就任致候間舊に倍し今後共何卒御引立賜はり度偏に奉懇願候　謹言
各位

有給社員（數名）募集
男女ヲ問ハズ奮鬪家ハ來タレ固定給及月收多大希望者ハ午前中面會ノ上相談ス
共保生命保險株式會社
磐城監督所主任　福島健之
平町驛前白銀町一〇

磐城共濟病院　電話六四一番　一二四番
內科　小兒科　院長醫學博士　石山謙郎
產婦人科　副院長醫學士　五十嵐雄二
外科　皮膚性病科　耳鼻咽喉科　部長醫學士　有馬勇二郎
X光線科　物理療法科　醫學博士　石山謙郎　技術員　石山彪
藥局　藥局長　藥劑師　吉本孝平
衛生試驗所　獸醫　高後利雄
事務長　鈴木寶雄
△診療時刻午前八時より午後五時迄

日本一
冨士自轉車
指定販賣所
フタバ商會
平。新川町。月見橋際

內臟外科一般
外科花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切叮嚀……料金は極めて低廉です
妊產婦の御家庭　お留守居／番
御病人の付添　年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二（電話〔呼〕六五二）
上原家政婦會
會主　產婆　上原通子

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社特約店
關彰商店平支店　電話六一番
本店　水戸線下館驛前（電話五五番）
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三 八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
◇海上給油及油槽所
久慈濱、大津、平潟

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先（マツサキ）ニ（松崎（マツサキ）ニ）
三九二（ミクニ）タクシーへ
（デンワ、ミクニ）

お醤油は……ヤマフル
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）
味噌　醤油　たひら正宗　鰹節　食料品

明治生命磐城代理店　山崎與三郎

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
（久）釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

石城酒造組合主催　唎酒會
優等
入選
白鳥の[illegible]
辰の口本店　平窪村（電話平二八五番）
販賣店　平町二丁目（電五四六番）

血涙の救農運動に 郡下から三代表參加

青沼平町長、平窪、草野兩村長

昨六日福島市に於て開催された縣下全農民代表者大會の決議

一、時局匡救各種土木事業費及び各種農村救濟施設費の增額と復活とを期す

一、東北地方に對しては氣候風土民力其他の事情を考慮し以て前記各事業費の制當を特に高率にせられんことを期す

一、東北地方に對してもほう大なる軍事豫算の恩惠に均てんせしむるやう適當の施設あらんことを期す

に基き各團體では直ちに上京委員を決議する必要があるので大會終了後同所に居殘りそれ〲協議した結果縣會側から十名、町村長會側から三十名、縣農會側から二十名、耕地協會側から四十名、合計百十名の代表者を定め實行委員として明八日午前十時まで東京府會事務所に參集、夫々當路に向つて運動を開始する事になつたが郡下からは縣町村長會長平町長青沼銓太郎、草野村長鈴木長壽、平窪同草野常彌の三氏が參加する事となつた

師團長宮 平御通過

東久邇第二師團長宮には紀元節拜賀式御參列の爲明後九日午前二時二十二分、御歸任は十三日午前三時二十分平驛御通過の御豫定である

三ヶ年計劃の 荒廢林復舊工事

平町に技術員出張

本郡山間部では從來山崩れが非常に多くそれがため植林作業も出來ず被害甚大なので縣では來年度より三年間これら荒廢地の復舊をすべく今般平町役場內に荒廢林復舊工事臨時出張所を設け本郡の外相、双二郡にもこれが改修を行ふ事になつたが主任者技手橋本喜一郎氏外數名が昨五日着任したが町では同事務所が狹隘の爲近く經費一千餘圓で新事務所を建設すべく計劃を進めて居る

關係區長が會合 費用分擔の評定

道路鋪裝漸く具體化

長橋々畔より紺屋町元警察署を經て五丁目愛谷江橋際に至る平町縱貫道路の鋪裝は當局に於ける計劃が愈々具體化し約四萬圓の工費中地元負擔一萬圓の半額五千圓を受益者より醵出すべく明後九日

後一時から小學校に開き野崎新村長を總裁に推すべく協議すると

川角—長橋、木澤—研古、水竹—紺屋、明智—一、山崎—二、梅原—三、松本—四、山部—五の關係八區長を招集種々協議をする事になつたが工事はマカダム式三層充塡（玉石、目つぶし、コンクリート、アスファルト）基礎から路面まで約二尺、路面コンクリート六寸乃至八寸、一平方米當り三圓十六錢（一面坪約十圓）で行ふ計劃であると

。。。。。玉川靑年總會　明八日午

平驛貨物增

去月中發着統計

平驛去月分の貨物取扱數（括弧內は昨年同月）は發送五千百六十九噸（二千四百三十二噸）着一萬二千二百八十二噸（八千四百噸）でその收入七千三百七十五圓二十五錢（五千三百六十四圓二十八錢）で昨年に比し發著共非常な增加を示してゐる

過半は標準以上

今板額も少くない

磐女の体重測定成績

磐女校で去月下旬生徒七百三十三名に就いて体重測定を行つたが甲（標準以上の者）三百八十名、乙（標準と一致するもの）三六名、丙（標準以下一割減以上の者）二百九十七名、丁（同一割減以下の者）二十名で標準以上の者五割六分强（四百十六名）標準以下の者四割三分强（三百十七名）で斷然スポーツ磐女の名を辱めぬものがある

。。。。。第二校研究教授　今七日午前九時より尋六ノ一佐藤訓導の算術で同放課後批評會を開いた

南朝事蹟公開講演

權威平野冷堂氏來平

平町各小學校敎員よりなる修養會では明後九日午後二時半から第二校で平野冷堂氏の『本縣に於ける南朝の事蹟』と題する講演を催すが、氏は舊佐倉藩士で年少にして漢學に通じ長じて宮內省に出仕して『大政紀要』の編纂に參與し、賞勳局、文部省に歷任、文部省の敎育資料の編纂に從ひ中等學に關する記事を作り上げ後女子大學講師となり、現今は南朝史蹟の研究に身を委ね諸國に研究行脚を續けてゐる斯界の權威で一般の聽講も歡迎すると

江名町民記念植樹

江名町農會では御慶事記念事業として每戶に柿及び無花果の苗木二本づゝを配布植樹する事になり郡農會に苗木斡旋方を依賴した

。。。。農事講演會　江名町農會では來る十七、八の兩日同町小學校に農事講演會を開くが講師は齋藤神谷分場長及矢ヶ崎技手である

受理九十件

去月中の平檢事局

平檢事局に於ける一月中の管內各警察署の送致件數は平署の六十件を筆頭に植田十四件、四倉七件、富岡六件、浪江三件、合計九十件であると

。。。。第三職員卓球　第三校では今七日職員運動日で卓球試合をなした

兩縣を繋ぐ 九面隧道竣功

來廿二日盛大に擧式

工費二萬圓で工事中であつた茨城縣界勿來町地內九面トンネルは此程竣功、勿來町では協贊會を組織愈々來る二十二日大々的な竣功式を擧行する事になつたので近く縣土木課より田中技手が來郡踏査する

靑年會館寄附決定

男子分七百卅七圓

靑年會館建設寄附金割當男子分は去る三日磐中に開かれた幹部會で協議の結人左の如く一人十錢宛で七百三十七圓五十錢である

平八一六　飯野一七三

高久一五九　夏井一六五　豐間二八七　江名三四四　鹿島九九　小名濱一五九　玉川一三二　湯本一一〇　磐崎一〇二　藤原四一　內郷一五五　好間（第一）一四七　同（第二）一〇一　赤井（第一）八二　同（北部）一一一　神谷一五五　草野二三七　大浦二二二　四倉一〇四　大野二四七　平窪一九九　上下小川一九四　川前六五　桶賣一一〇　永戶一四九　箕輪（第一）四二　同（第二）二八　澤渡七三　三和一〇　三坂一一九　泉一四四　渡邊一四一　植田三一二　山田二二九　錦一八四

勿來（第一）二四四　同（第二）一二六　上遠野一九八　入遠野一七七　川部二四〇　田人二四七

舊歲末貧困者の 救濟金分配決定

五十錢乃至二圓四十錢 外に白米一戶一升宛

舊歲末貧困者百五戶四百八名（昨年度四名增加）に對する救濟金分配協議會は昨六日午後二時から開いた結果最高二圓四十錢、最低五十錢でこの合計額百三十四圓八十錢、其他白米一戶一升宛に決定近く配布する事

る

炬燵の殘り火から 四戶一棟を全燒

昨日內郷村の晝火事

昨六日午後三時頃內郷村大字綴字一の坪六〇炭鑛運搬夫今野多門（四二）方座敷より發火四戶一棟約十坪を燒失同五時鎭火した、原因炬燵の殘火損害三千餘圓

になつた

。。。。平署人相施與　平署人事相談所では舊歲末貧困者救濟の爲金品の寄附を取扱つて居たが昨日迄白米二升金二十圓を取集め役場の分と共に配布する事になつた

。。。。耕地疑獄に猶豫　双葉郡富岡町大字毛萱元耕地整理組合長佐藤德右エ門（五五）が縣補助八千餘圓を詐取した事件は昨六日午後五時半平支部で中島裁判長係り關口永根兩判事陪席、濟田檢事關與、眞木、門傳、永野、北川各辯護士立會求刑一年六月に對し懲役一年執行猶豫三年を言渡された

。。。。附加稅徵收打合　平町では明八日午後一時から鹿島飯野兩村長を招し磐城炭鑛に對する鑛業稅附加稅步合裁定申請に關しての事務打合せを行ふと

平では所長四家久米治（八年十ケ月）同神長倉金造（六年八月）兩氏であるが四家所長は本縣六名中の最永年勤續者であると

古物商組合設立

湯本、磐崎の古物商は此程組合を設立、組合長に湯本町高橋由兵衛氏が就任した

。。。。海兵豫備檢査　平町では來る十日午後一時より來月一日執行される九年度海軍志願兵十五名の豫備檢査を行ふ

。。。。職紹職員表彰　青森職業紹介事務局では十一日の佳節をトし管內職紹專任職員の永年勤續者を表彰するが

ラヂオ講演

十三日は當日マルトモに開催、仙台放送局園田技師長のラヂオに關する講演がある

酒好き兵隊さん 二度脫走した

勿來出身の廣田二等卒

勿來町出身若松步兵第二十九聯隊第九中隊二等兵廣田武司（二三）は五日午後七時頃隣接會津工業學校の板塀を乘り越え脫走したので聯隊で憲兵隊と協力嚴探中六日午前九時半頃東山溫泉に至る道路に添ふ字野邸前の飲食店で飲酒酩酊してゐるところを捕はれた、同人はこの一月入營の翌日脫走し二日の重營倉に處せられてゐるもので原因は病氣と稱してゐるがアルコール中毒に掛つてゐるため酒がのみたさの脫走とも見られてゐるが眞相を嚴重取調べ中である

。。賭博。　郡山市湯屋佐藤勝三（三）千葉縣銚子市飯沼町二〇てき屋岡本武寶（三六）郡山市大重町本間勝吉（三二）郡山市阿邇陀町三四同村高久太郎（四八）同市芳賀十九一（三七）の五名は昨六日午後十時頃平町驛前伊達屋旅館表三階で賭博開帳中平署員に踏込まれ一網打盡檢擧さる

又双葉郡浪江町大字權現堂字鳥喰日雇業文司事鈴木壽（三七）字內田一一五宿屋業桑島安藏（四五）字利賀町一六材木商菊地治尙（三五）字柳町入江ヨシ方牛馬商林藤太（四四）幾世橋村大字跡字鶴子谷地一六無職佐藤常治（四〇）は去る十二月二日正午頃桑島方に於て四三四六と稱する丁半類似の賭博をなし平區關口判事より鈴木、桑島、菊地、林の四名は罰金六十圓佐藤は同二十圓の略式命令を受けた

月に千個の蒸しがま

從來餘り人に知られなかつた

平町の代表的製造工業

平特産の蒸し竈は溫室の暖房具からヒントを得たのだそうだ——新案特許第一五、三一一號の刻印を捺され町中の旅館や料亭などから便利だ、重寶だ、經濟的だ。と漸次禮讃の聲が起り次から次の臺所へハイスピードで傳はつて行つた

×

昭和六年頃からボツ〲各方面へ送り出す樣になり同年の出荷總數は二千二百四十九個、八萬二千九百五十三斤、之の運賃が五百三十一圓九十九錢で最近では殆んど每日各地へ發送されて居る。と之は平驛員の話である

×

燃料經濟、火元安全、保溫衞生的、價格低廉と言ふ處から先般東鐵主催の貨物移動展覽會にも出陳され各所で大した人氣だつたとの事である

×

此の品の賣り出し當時は丁度素燒の七輪と同じやうな極く粗末な燒き方で見た目の感じが誠に良くなかつたので折角立ち止まつた客も二の足を踏む始末に生産者も之れが改良に可成の苦心を拂ひ本場の愛知縣から職人を招いだり、地方の職人を見習ひに遣つたりして種々工夫の結果現在の樣な體裁に漕ぎつけたのだ

×

そして今では平の工場だけで間に合はず、又一つには運賃の關係上愛知縣高濱港にも工場を設け、熱田驛前に營業所を開設した程の勢ひである。處で此の竈一個を送り上げるには原料練上げから乾燥迄には約二十五日要するが、現在高濱港の工場では七十人の從業員が二十個の竈で一月二千個平の工場で約二十人の從業員が十個の竈で約一千個製造しつゝ有るが、此の中に不合格品が出來るし且約一ケ月と言ふ長期間が費されるのでその價格が稍々割高になるのが憾みである

×

移動展があつてから東北北海道方面へ一寸發送が有つた後『バツタリ』と需要が途絶へたので變なことだと調べて見ると後進の三河物が物凄い勢で九州、北陸さては本家の家根を跨いで北海道に迄進出してゐたことが判つた

×

工場でも之に刺戟されて倍々優秀な物を造り昨今では連日相當の發送が有り昨年一月から十月迄に積み出した數が驚く勿れ五千五百六十八個、重量二十一萬六千六百十一噸この運賃千四百四十九圓二十六錢に上つてゐる、そして愛知邊りの先進陶器驛などに就て完全な荷造り方法を研究し當局とも打合せて輸送の完全を期してゐる等、平町に於ける斯業の前途は、彼の鼈に幾度か話題に上り乍ら容易に實現されぬの木工品製造、養魚問題などより一足お先きに失敬して實に洋々たるものがある

磐城名物

靈峰羊羹（みやまようかん）

小川郷驛前　平屋賣店

諸判定所　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神　館

▲一白の人　過ぎたるは及ばず理想高きも實は學らぬ日▲二黒の人　花のしぼみて實を結ばざる如し移轉動土赤凶▲三碧の人　跡のこりの無きやう仕事を片付くるに吉なり▲四綠の人　他の辯口に誘はれて進退兩難に陷る如き日▲五黃の人　不滿の念を起さず常業に勉むれば利じゆんあり▲六白の人　目先の利益のみ謀りて後々を思はざれば凶▲七赤の人　小さく始めたる業も次第に擴大せらるゝ日▲八白の人　希望に添はざる事も辛抱強く勵めば功あり▲九紫の人　運途は全盛にして多少の無理も通らんとす

新二月八日	舊十二月廿五日
木曜	庚戌
赤口	成
角宿	

八日

日出　六、三六　月出前　〇、五八

日沒　五、一五　月沒前　一〇、四七

滿潮　前　一〇、一〇　後　——

干潮　前　三、三〇　後　六、二五

女中さん入用

炭鑛高級社宅住込み、年齡二十歲迄

希望者來談あれ

姓名在社

夜間診療

胃腸性病

內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科

專門

松村胃腸性病科醫院

（平町南町電一〇七番）

今流行のレコード

東京音頭　昭和音頭　福島音頭　萬歲音頭　スキー行進曲　希望の首途　春のエレヂー　急げ幌馬車

其他新譜レコード各種

金光堂時計店

電話一九五番

ビクター　コロンビヤ　特約店

眼科專門

賀澤眼科

平町南町　電話七一二番

診療時間　每日　自午前八時　午後九時迄

產科　婦人科　外科　藥局

院長　木村寅次郎

醫學博士　內木宗八

藥劑師　玄番彌一

入院隨意　病室完備

平町新川町十九番地

木村病院

電話一六四番

眼科專門

院長　吉田安雄

醫學士　吉田久雄

吉田眼科病院

平町紺屋町　電六八

貸切ノ御用命ハ

ゼヒ三井自動車部へ

電話六八五番

乘合は　好間…合戶…澤渡方面行